

## 第29回 市長と学長との懇談会

日時：平成29年12月15日（金曜）15時30分～17時30分

場所：神戸松蔭女子学院大学「松蔭大学会館」

### 1. 学生の市内就職の促進について

（久元市長）

神戸市内での就職を希望せず、海外や東京で活躍したい学生がいることは当然であり、そういった学生に少しでも神戸に目を向けてもらうことも必要だが、神戸で就職したいと思いながら実際はできていない学生についてどう対策するか。また、深刻な人手不足の時代で、市内企業は喉から手が出るほど新卒者が欲しい状況であり、市としては市内企業のニーズにできるだけ答えていきたい。このあたりについてご意見を伺いたい。

（甲南女子大学）

本学では、兵庫県中小企業家同友会、大学コンソーシアムひょうご神戸、甲南女子大学、神戸学院大学、と協調して、同友会が主催の「合同企業説明会」、「兵庫就職サミット2019」の支援活動を行っている。合同説明会での企業、学生双方の満足度を向上するため、学生約15名と同友会の企業と様々な試みをはじめている。こうした活動が市内への就職にも好影響を及ぼすのではと期待している。

（甲南大学）

入ってくる学生と出ていく学生、そのトータルを足した活動量の大きさのようなものを挙げて神戸は非常に活気のあるまちだという見せ方をすべきではないか。また、インバウンドや留学生が重要になるだろう。

神戸市の魅力を上げるという点について、例えば4年間の学生生活のうちで1回ぐらいは三宮で可視化して大きな活動ができるステージや発表の場があれば神戸に対するリスペクトが大分違って来るだろう。

KOBE JOB PORT（雇用や就労、就職関連のイベント情報などを掲載した市のポータルサイト）は非常に良くできているが、最初に就職する人だけではなく、就職して3年後ぐらいで戻ってくる人などもターゲットとしてはどうか。

（兵庫県立大学）

学生が就職したいと思える魅力的な職場を増やしていくことが重要だ。同時に神戸市内の魅力を向上させ、生活しやすく、子どもを育てやすい環境をつくり、神戸で仕事をしたいと思ってもらえるようにしなければならない。

姫路では、地域の企業情報データベースをつくることで姫路市内、播磨地域の企業を登録し、詳しい企業情報を在校生に伝える仕組みがある。また、今年からUターン、Iターン向けの情報発信もはじめた。来年度以降、兵庫県下全体の企業が登録できるよう検討している。

(神戸薬科大学)

医療産業都市を中心に、企業の方と話し合う機会を設けていただいたり、インターンシップを受け入れていただければ非常に助かる。また、大学院のドクターコースに進学する学生を増やしたいが、就職先がなかなか無いという問題もあるので、医療産業都市に入る様々な情報をご提供いただきたい。

(久元市長)

大学院の修了者に対する処遇については問題意識を持っている。大学では次々に新しい学部・学科ができており、文理融合が進んでいるが、例えば神戸市役所の試験区分は昔から全く変わっていない。採用試験の方法や、採用区分のあり方が大学の改革に沿っているのか、近々、有識者会議を立ち上げ議論したいと思っている。

(神戸芸術工科大学)

卒業すると人が減るが、そこから帰ってきている人たちの動態も捕まえておく必要がある。若者の幅はかなりあるので、経済的な支援や住まいの支援が、学ぶ、仕事を得る、家族を持つ、子育てをする、というところまでうまく循環できれば良い。神戸市に魅力があり、住みたいということになれば、神戸に帰ってくる人たちに対する支援にもなる。

KOBE JOB PORTをつくっていただいたのも大歓迎だ。キャリアセンターとも連携してネットワークをつくることができる。ぜひ情報をもっと使える形に工夫していただき、私たちに共有いただければと思う。

また、学ぶ人たちの住まいの問題は大きな支援の力になっている。住まう人たちへのサポートが、就職後も、結婚後も、子育てのときもつながっている。若者が快適に住める環境を市が準備しているということのを売りにしていただければと期待している。

(久元市長)

住環境の問題は、力を入れていかなければならない分野である。市では市営住宅や住まいまちづくり公社の住宅をリフォームして学生や若い世代の皆さんに入居いただき、さらに新年度は新しい組織をつくって空き家の利用方法を検討し活用を進める。

(兵庫医療大学)

本学はすべて医療系の学部で女性が多いが、ほぼ100%阪神間に就職している、神戸

市を活性化させるために、市で男女共同参画を進め、女性がどんどん就職してプロモーションするという先進例をつくるということができないか。

また、湾岸線が延伸されることが国交省で決まったが、医療産業都市構想とともに、六甲アイランドとポートアイランドがいかに快適な住環境を提供するかということも併せて進めてはどうか。

(久元市長)

医療産業都市は、新しくつくる機構が、海外への発信というメインのミッションと併せて、まちづくり全体もコーディネートすることで、医療産業都市全体のシナジー効果を発揮したいと考えている。ポートアイランドは住宅を増やすという発想よりも、湾岸線のインターから降りた人たちが、そこで楽しんだり、にぎわいをつくっていくというような場所にできないかと考えている。

(神戸親和女子大学)

本学は毎年卒業する学生の半数が教育・保育関係に就職している。特に保育、幼稚園、認定こども園関係に毎年150名ほど就職しているため、保育士の修学資金貸付事業を立ち上げてもらったのは非常にありがたい。しかし、本事業の対象条件では日本学生支援機構（JASSO）との併給は難しいのではないか。これがネックとなり、本学の場合は応募しにくいというのが現状である。せっかく良い支援制度を設けていただき、募集枠が50名もあるので、もう少し利用しやすくしていただきたい。

(神戸親和女子大学)

本学では北区の市営住宅を3部屋借りている。ある程度は市でリフォームをしていたのだが、学生が入るにはトイレが古かったり、ベッドやキッチンが必要であったため、本学で1軒あたり100万円、計300万円をかけて改修し、シェアハウスのようにした。今ようやく学生が6名入っている。大学から非常に近いので便利であり、さらに市営住宅を借りる申請をしているが、なかなかスムーズにはいかない。今後、さらに施策を進めていただきたい。北区の唯一の大学なので、何とか北区の活性化にも貢献したい。

(久元市長)

保育士の制度つくっても応募が少ないというのは、制度に欠陥があるため見直したい。また、若い世代の皆さんは、やはりトイレをきれいにしなければ入居していただけないので改善したい。

(甲南女子大学)

保育士確保のための処遇改善については国から費用がおりてきているが、使い勝手が

悪い。不公平感が生まれたりする。

それに対して、平成29・30年度の2年間にわたる、新卒保育士に対する一時金の支給は非常に意味があり大きく評価をしている。若い保育士が定着して、子どもを教育し、自分たちも将来そこで結婚するというサイクルになれば良い。難しいとは思いますが、ぜひ2年間と言わずに続けていただきたい。

(神戸親和女子大学)

保育士の処遇改善が進んできたので、昔は給料も16、17万だったのが、今は20万を超える初任給になってきた。いろいろな一時金もあるので、保育士不足や幼稚園の先生不足は少しずつでも改善されるのではないかと感じている。

(神戸常盤大学)

保育士を巡ってはいろいろな問題があるが、この問題は単に保育だけの問題ではなく、社会・経済の大きな問題につながるものである。神戸市の就職率を上げていく必要があるのであれば、市の方で、国以上の待遇改善というのを考える必要があるのではないかと感じている。

(頌栄短期大学)

本学は5割近くが神戸市内に就職する。市内就職率は、業種によってかなり違いがあるため、どこを強化すべきなのかという観点も必要かもしれない。

大学入学以前の教育課程で、職業体験やトライやるウィークがあるが、実はあれが非常に有効であると感じている。

また、18歳人口の絶対数が多くないため、学校として機能していくためには、働きながら学ぶというチャンスをつくっていききたい。まちなかで学ぶことができる場を市で少し補助していただくとか、準備していただくとか、そういう形での地域への定着が、年齢を広げて実現する可能性もあるのではないかと感じている。

(神戸学院大学)

KOBE JOB PORTについて、市のホームページからたどり着くのに、若干時間がかかった。学生が就職情報を見る時期には期間限定でも入りやすい工夫をしていただきたい。

## 2. 学業が優秀な学生に対する支援(経済的理由から退学する学生への支援)

(久元市長)

この問題について、どの程度、学長の先生方が深刻な問題として捉えておられるのか。私どもは、せっかく神戸の大学などで学んでいただき、ものすごく優秀であるにも関わらず経済的理由で退学して神戸を離れてしまうのは、非常に大きな人材面での損失ではないかという問題意識を持っている。何らかの対応が考えられないだろうか。

(神戸山手大学)

本学では、観光関係企業と連携し、観光業が忙しい土日や夏休み、ゴールデンウィークに、1～6カ月の長期のインターンシップを、報酬をもらう形で実施している。ホテルやブライダル、レジャー施設などで働くことが結果として、そのまま就職に結びつくため、神戸の観光を担いながら経済的な面でも養っていくことができ、成果が出ている。

今回、神戸市観光局がDMOを立ち上げる中で、学生がシェアリングエコノミーを実践(ゲストハウスや民泊等を運営)することで、今後2019年のラグビーなど大規模なイベントやコンベンションでの宿泊をうまく収益化できるような仕組みをつくり、学生の経済支援や就職までつなげていきたい。そのために、DMOが神戸地域の観光業者のハブとなり、大学生や外国人留学生をうまくつなげていっていただければと考えている。

(神戸国際大学)

経済的理由の調査だけでは本当の中身は見えない。今の時代、シングルペアレントが多くなり、離婚後または学生が入学した後に離婚されたことで経済苦が起こり、奨学金を家庭の生活費に回すという場合や、たとえ奨学金をもらっていても、家庭を支えるために学生が労働する必要がでてきて、大学へ来られなくなるという場合もある。

何とか支援したいという気持ちで、奨学金等による学生支援をしても、それが留学生や日本人学生にとって経済的負担になっているのではないか。

留学生に関して、かつては中国の留学生の数が多かったが、今はベトナム、ネパールが多い。留学生は経済状況が全然違うため、支援も大切である。かつてと全く違うのは優秀な学生が来るということだ。十分に日本の労働市場で活躍できると考えられるため、こういった支援についても、市の方が積極的に目を向けてほしい。

留学生が神戸へ来る理由は、神戸が魅力的だからである。神戸だから来たという学生がとても多いことは認識された方が良いでしょう。

神戸市内において、卒業した留学生を受け入れる企業はどのくらいあるのか。

(事務局)

数値として把握はしていない。今年7月に留学生を対象にした就職説明会を初めて開催しており、今回参加した20社の他にも希望があったと聞いているため、一定数はある

と考えている。

(甲南大学)

神戸市とネットワークを結んでいる国や、姉妹都市の国から留学生をある程度確保していただき、それを各大学が受けるような案はあるのか。市でイニシアチブがとれるような留学生をある程度とってくれば、かなり政策的なにぎわいもつけられやすくなる。

(久元市長)

姉妹都市との間で、神戸市が介在をして、留学生を神戸に呼ぶという取り組みはしていない。むしろ、様々な姉妹都市交流の中で、大学に参画をしていただき、留学生の増加に結びつけるような取り組みというのはあり得るかもしれない。

(神戸芸術工科大学)

経済的理由は一人一人の状況で大きく異なる。大学の教育の仕組みや職員の対応など様々な工夫をしなければならぬと感じているが、そのためには、どこでどのぐらい本学の学生を求める受け皿があるのか、神戸で何社あるのか、どこにその窓口があるのかという情報が必要だ。KOBE JOB PORTができたが、本当に神戸市で、学生、卒業生を欲しいという企業の情報をこのサイトがしっかり抱えて、企業を引っ張り込むような仕掛けがまずは必要である。なおかつ将来、奨学金を企業から提供してもらおうなど、もっと企業もこの仕組みの中に入ってきてほしいと期待している。

また、神戸市で、経済的に厳しい学生を含む優秀な学生を支援すると決めて、奨学金の額を示していただき、その額の中で私たちが最善を尽くし、将来を担う優秀な学生を選び提供していく。そして、その学生が将来社会へ出たときに今度は支援をして後輩をつくっていけるような良い循環の仕組みができればと思う。

(久元市長)

奨学金は今の制度に加えて、県、神戸市あるいは神戸市が単独の奨学金をつくっておき、今後とも充実させていきたいが、国の方が今、抜本的にいろいろな制度適用しているため、それを踏まえて、神戸市も補完をするというような役割で今後も考えている。

このテーマはいきなり奨学金ということではなく、各大学と連携した相談窓口をつくる必要性があるのか無いのかということだ。

(神戸学院大学)

全入時代に近づいてくると、複合的な理由で修学困難になるケースが非常に増えてくるが、本人や保護者から話を聞いても、大学の中ではなかなか実際の実態を語ってもらえない現状がある。そのため、神戸の大学と行政が連携した相談の場の設置が必要では

ないか。窓口を神戸市で用意していただけることになれば、そこから各大学に情報提供していただくという道ができるのではないか。

大学と市が連携して取り組むことで、神戸は修学しやすい地域であり、若い人たちの学ぶ意欲があれば支援していく、ということを出せるのではないか。

(神戸親和女子大学)

ぜひ神戸市に窓口を設けていただきたい。日本学生支援機構の有利子の奨学金を借ると、4年間で500万円もの借金を背負って卒業することになる。保護者が非正規で働いている家庭も多く経済的に苦しいので、奨学金の給付型も考えていただきたい。

(神戸学院大学)

国が高等教育の無償化というのを考えておられるが、高校生の段階で優秀な学生で、進学をしたいにも関わらず、大学まで行けないという状況の人がかなりいるのではないか。優秀という基準をどう定めるかではあるが、経済的支援のシステムができれば、市内の大学へ進学してくれる可能性も出てくるのではないか。

(久元市長)

前回、大学の交流拠点等をつくるべきだというようなご意見があったため、その検討状況について説明させていただく。

(谷口局長)

大学生、企業、留学生といった方々が集まり、お互いに意見交換ができる場をつくるため現在、場所の選定等をしている。これまで、就職先をどのように見つけていくか、どういった支援をすれば、大学生や留学生が過ごしやすくなるかということを検討するためのワークショップを開催し、学生や企業の方々に自発的に集まっていただき、提案をいただいていた。来年度、三宮近辺の便利なところで各大学の皆様方に集まっていただける場を目指して検討を進めているところである。

(久元市長)

中長期的にはかなり規模が大きい本格的な交流拠点が望ましいわけだが、なかなかそういう場所も今、三宮の便利なところには無いため、とりあえずは暫定的なものとして用意できればと考えている。